

日本医学放射線技術史における

梅谷友吉小伝

新島襄とドイツ

守屋 正

今市 正義

新島襄（一八四三—一九〇〇）がドイツと関係のあったことは従来全く報告されていない。今般新島がドイツに滞在中に親交のあった友人からの手紙が一括発見され、その中に同志社医学学校に関する記事が書かれているので発表する。

新島襄は一八七〇年（明治三年）七月に渡米し、キリスト教の勉強をしていた。一八七二年三月に右大臣岩倉具視の使節団の通訳を命ぜられ、文部理事官田中不二麿のもとにつくことになった。田中は欧米の教育制度、教育施設を調査する任務を帯びていた。同年五月一日にニューヨーク出帆、同二日にリバプールに到着し、イギリス、フランス、ドイツ、スイス、オランダ、デンマーク、ロシアを一年三カ月かかって視察した。ドイツには一〇カ月余り滞在した。当時ドイツには日本の留学生約八〇名がいた。新島ははじめベルリンに滞在し、のちリウマチ療養のため、

（抄録未着）